

ネパール，山間地域における薬用植物利用

民間治療師の治療法と活動

平成 26 年入学

派遣先国：ネパール連邦民主共和国

中村 友香

キーワード：薬用植物，民間治療師，ネパール連邦民主共和国，医療，山間地域

・対象とする問題の概要

ネパール連邦民主共和国では近年に至るまで様々な医療問題が指摘されてきた。医者たちが海外に流出してしまうという問題のほかに，医師の半数以上が首都カトマンズに集中する一方で，地方での医師が不足しているという国内格差の問題もある。その数はカトマンズでは患者 850 人に対して医師一人，地方では患者 15 万人に医師一人とも言われている。また山間地域は場合によっては公的医療機関へ数日間の徒歩を要しアクセスが困難であると言える。村落開発委員会ごとに配置される公的医療機関ヘルスポストも人員の不在や医療機器が不足によって，機能していないまたは可能な治療は限られている状態である。医療保険制度が存在しないことなども問題としてあげられる。

また医療機関の問題のほかに疾患の傾向も変化もみられ，感染症や外傷，栄養失調のケースは受診の多くを占めているものの，糖尿病を始めとする慢性疾患が増加している。

・研究目的

上記で述べたように，ネパールの山間には公共医療機関で迅速かつ適切な治療を受けることが困難である地域が存在すると考えられる。また先行研究では，古くからネパールには病いの治療を行う祈祷師が存在すること，彼らの一部は薬用植物を使用することがあると指摘されてきた。このことから，山間地域における薬草を用いる民間治療師の役割について研究を行いたい。ネパール山間地域において薬用植物を利用した民間治療がどの程度行われているのか，具体的にどのような植物がどのような立場の人物によってどのように治療に利用されているのか，またその薬用植物による治療がその地域の健康問題に対してどのような役割を負っているのかについて明らかにすることを本研究の目的とする。また，民間治療者と被治療者の双方を焦点に調査をすることによって，当該地域での医療問題の解決の一助とすることが，本研究の最終的な目的である。

・フィールドワークから得られた知見について

今フィールドワークではネパール連邦民主共和国のムスタン郡，ロルパ郡，ルクム郡の 3 郡で準構成面接と直接観察による調査を行った。

1. 薬用植物を利用した民間療法

特にロルパ郡とルクム郡では薬草を利用した民間療法が見られた。今フィールドワークでは人間の治療に使用される薬用植物 15 種類と家畜に用いる薬用植物 2 種類の名称と効能について明らかとなった。

ジャイシと呼ばれる治療師が主に薬用植物の効能や生息地，利用法についての詳細を特に知っている人物であるということが明らかにあった。



写真 1 熱に効く薬用植物



写真 2 滋養強壮のための薬用植物

2. 伝統治療師について

治療師たちの実践は多様で，薬草を使用する治療師は何種類かいることがわかった。

ジャイシは伝統治療師を指し，薬草やマントラ（呪文）を使って治療を行う。彼らは風邪，関節痛，怪我，筋肉の硬直，黄疸（肝疾患），てんかん，結核，蛇にかまれた，精神疾患，狂犬病，淋病，不妊の治療から，「悪霊と戦う」「好きな相手が自分に惚れるようにする」「怒らせた相手の怒りを鎮める」などの術まで幅広い実践を行う。



写真 3 薬用植物について書かれた古い本を見せてくれたジャイシ



写真 4 触診する接骨師

接骨師は触診によって骨折や脱臼を判断し，マッサージや薬用植物の処方，竹で作ったギプスによる固定などによって治療を行う。

産婆は主に逆児や片腕からの出産などの難産の介助，薬草を使った後産の介助を行う。

ダミジャンクリはこの地域の祈祷師のことを指し，主に呪文や祈祷，薬草によって治療を行う。神の声や夢から病気に関する知識や治療の技術，薬草の生えている場所や効能について学ぶ。彼らは感染症に対する薬草の処方から，悪霊払いまで幅広い治療を行う。

3. 民間治療師の役割

薬用植物を利用した民間治療師は，公的医療機関へのアクセスが困難な場合や，公的医療機関で治療

ができなかった場合に補完的に利用されるだけでなく、両者を同時に利用する人々や、公的医療機関よりも高い技術を認めて利用する人々が見られた。

・今後の展開・反省点

今フィールドワークでは一部の薬用植物とそれを利用する民間治療師の概要についてフィールドワークをおこなったが、それらが当該地域でどのような役割を果たし、地域住民にどのように認識されているのかについての調査には至らなかった。また、当該地域における薬草利用が現代のネパール全土や南アジアの文脈においてどのような意味を持つのかという視点が欠けていたことが反省点である。

そのため今後の研究では特に民間治療者を対象に薬用植物に関する調査をさらに進めるとともに、被治療者の医療や健康、身体に関する認識と行動に注目して研究を行う。また、民間医療に関連する事項のみならず、当該地域における近代西洋医療機関についても研究を行う必要がある。本研究が当該地域にとどまらず、ネパールや南アジアの文脈の中でどのように位置づけられるのかについて今一度文献研究と地域でのフィールド調査の双方を通して検討していく。